

中尊寺



<http://digitalarchiveproject.jp/information/中尊寺>



中尊寺は嘉祥3年(850)、比叡山延暦寺の高僧慈覚大師円仁(じかくだいしえんにん)によって開かれました。その後、12世紀のはじめに奥州藤原氏初代清衡公によって大規模な堂塔の造営が行われました。

清衡公の中尊寺建立の趣旨は、11世紀後半に東北地方で続いた戦乱(前九年・後三年合戦)で亡くなった生きとし生けるものの霊を敵味方の別なく慰め、「みちのく」といわれ辺境とされた東北地方に、仏国土(仏の教えによる平和な理想社会)を建設する、というものでした。それは戦乱で父や妻子を失い、骨肉の争いを余儀なくされた清衡公の非戦の決意でもありました。

清衡公は長治2年(1105)より中尊寺の造立に着手します。まず東北地方の中心にあたる関山に一基の塔を建て、境内の中央に釈迦・多宝如来の並座する多宝寺を建立し、続いて百余体の釈迦如来を安置した釈迦堂を建立します。この伽藍(がらん)建立は『法華経』の中に説かれる有名な一場面を具体的に表現したものでした。

清衡公は釈迦如来により説かれた法華経に深く帰依し、その平等思想に基づく仏国土を平泉の地にあらわそうとしたのでした。清衡公は『中尊寺建立供養願文』の中で、この寺は「諸仏摩頂の場」と述べています。この境内に入り詣れば、ひとりも漏れなく仏さまに頭を撫でいただくことができる。諸仏の功德を直に受けることができる、という意味です。

法華経の教えに浄土教や密教を加え大成された天台宗の教えに基づく伽藍が境内に建ち並び、その規模は鎌倉幕府の公的記録『吾妻鏡』によると、寺塔が四十、禅坊(僧の宿舎)が三百におよんだといいます。

二代基衡公は、父の志を継いで薬師如来を本尊とする毛越寺の造立をすすめ、三代秀衡公は阿弥陀如来を本尊とする無量光院を建立しました。三世仏(過去釈迦、現世薬師、未来世阿弥陀)を本尊とする三寺院の建立は、すべての生あるものを過去世から現世さらに未来世にいたるまで仏国土に導きたいという清衡公の切実な願いの具現でもありました。

平泉はおよそ100年近くにわたって繁栄し、みちのくは戦争のない「平泉の世紀」でした。しかし、平氏政権を倒した源義経が、兄頼朝と対立し平泉に落ちのびて間もなく、義経を保護した秀衡公が病死すると、四代泰衡公は頼朝の圧力に耐えかね義経を自害に追い込みます。その泰衡公も頼朝に攻められ、文治5年(1189)奥州藤原氏は滅亡したのです。

鎌倉時代以降、大きな庇護者をうしなった中尊寺は次第に衰退し、建武4年(1337)の火災で惜しいことに多くの堂塔、宝物を焼失しました。しかし国宝建造物第1号の金色堂をはじめ、建築、絵画、書跡、工芸、彫刻、考古、民俗の各分野にわたる文化遺産が現在まで良好に伝えられ、東日本随一の平安仏教美術の宝庫と称されています。

平成23年(2011)に中尊寺を含む「平泉の文化遺産」が世界文化遺産に登録されました。



001_中尊寺000



002_中尊寺001



003_中尊寺002



004_中尊寺003



005_中尊寺004



010_中尊寺009



011_中尊寺010



012_中尊寺011



013_中尊寺012



014_中尊寺013



015_中尊寺014



016_中尊寺015



017_中尊寺016



018_中尊寺017



019_中尊寺018



020_中尊寺019



021_中尊寺020



022_中尊寺021



023_中尊寺022



024_中尊寺023



025_中尊寺024



026_中尊寺025



027_中尊寺026



028_中尊寺027



029_中尊寺028



030_中尊寺029



031_中尊寺030



032_中尊寺031



033_中尊寺032



034_中尊寺033



035_中尊寺034



036_中尊寺035



037_中尊寺036



038_中尊寺037



039_中尊寺038



040_中尊寺039



041_中尊寺040



042_中尊寺041



043_中尊寺042



044_中尊寺043



045_中尊寺044

046_中尊寺045

047_中尊寺046

048_中尊寺047

049_中尊寺048

050_中尊寺049



051_中尊寺050



052_中尊寺051



053_中尊寺052



054_中尊寺053



055_中尊寺054



056_中尊寺055



057_中尊寺056



058_中尊寺057



059_中尊寺058



060_中尊寺059



061_中尊寺060



062_中尊寺061



063_中尊寺062



064_中尊寺063



065_中尊寺064



066_中尊寺065



067_中尊寺066



068_中尊寺067



069_中尊寺068



070_中尊寺069



071_中尊寺070



072_中尊寺071



073_中尊寺072



074_中尊寺073



075_中尊寺074



076_中尊寺075



077_中尊寺076



078_中尊寺077



079_中尊寺078



080_中尊寺079



081_中尊寺080



082_中尊寺081



083_中尊寺082



084_中尊寺083



085_中尊寺084



086_中尊寺085



087_中尊寺086



088_中尊寺087



089_中尊寺088



090_中尊寺089



091_中尊寺090



092_中尊寺091



093_中尊寺092



094_中尊寺093



095_中尊寺094



096_中尊寺095



097_中尊寺096



098_中尊寺097



099_中尊寺098



100_中尊寺099



101_中尊寺100



102_中尊寺101



103_中尊寺102



104_中尊寺103



105_中尊寺104



106_中尊寺105



107_中尊寺106



108_中尊寺107



109_中尊寺108



110_中尊寺109



111_中尊寺110



112_中尊寺111



113_中尊寺112



114_中尊寺113



115_中尊寺114



116_中尊寺115



117_中尊寺116



118_中尊寺117



119_中尊寺118



120_中尊寺119



121_中尊寺120



122_中尊寺121



123_中尊寺122



124_中尊寺123



125_中尊寺124



126_中尊寺125



127_中尊寺126



128_中尊寺127



129_中尊寺128



130_中尊寺129



131_中尊寺130



132_中尊寺131



133_中尊寺132



134_中尊寺133



135_中尊寺134



136_中尊寺135



137_中尊寺136



138_中尊寺137



139_中尊寺138



140_中尊寺139



141_中尊寺140



142_中尊寺141



143_中尊寺142



144_中尊寺143



145_中尊寺144



146_中尊寺145



147_中尊寺146



148_中尊寺147